

県内の市町村での環境への取り組みを紹介していきます。

# 木の香り漂う山家で、 環境を慈しむ意識が 広がる

朽木村役場 産業建設課 本村明彦さん

「森林文化の里」を標ぼうする朽木村。豊かな自然環境を次世代へと伝えていくために、NPO団体などと協力しながらさまざまな取り組みを行っています。二〇〇二（平成十四）年には、風力発電や太陽光発電を採用した、針畑郷山村都市交流館「山帰来」がオープン。朽木村の環境活動を担う中心的な拠点として注目が集まっているよつです。

## トチノキの植樹を通して 森林資源の大切さを伝える

朽木村は、村内の約九二パーセントが森林という豊かな自然環境に恵まれています。昔から、地域の人たちは、炭焼きをしたり材木の切り出しをしたりと、山や木と深く関わりながら暮らしてきました。「環境の時代」といわれる二十一世紀を迎え、こうした資源をあらためて

見直していくために、朽木村では二〇〇一（平成十三）年に「森林文化の里」を宣言し、さまざまな啓発・広報活動に積極的に取り組んでいます。

その一つが、同年四月に針畑地域で開催した「二〇〇一年朽木村記念植樹の集い」です。朽木村では、かつてお米の代わりにながら食べられるなど、トチノキというのは非常に身近な存在でした。また、戦後の植林によってスギやヒノキの

数が増えましたが、トチノキやブナなどの広葉樹は、雨水を蓄えてミネラルを含んだきれいな水を涵養する働きを持っています。

記念植樹の集いでは、地域の人たちはもちろん、滋賀県や京都府など下流域として恩恵を受けている人たち約五百五十名に参加いただき、地元で育てたトチノキを一本ずつ植えてもらうことで、森林保全や水資源について考えてもらうきっかけづくりにもなりました。参加者からは、世代間を超えた交流が楽しめた「里山の素晴らしさを満喫できた」という嬉しい声が寄せられ、私たちのその後の活動にも大きく弾みがつきました。

## 自然との調和を目指して 針畑地域を活性化

「朽木村記念植樹の集い」を契機に、針畑の魅力を継続的に発信していくことという気運が盛り上がりました。針畑は、朽木村の最奥部、安曇川の源流に位置する山深い地域。ほかの多くの山村地域と

同じように、高齢化と過疎化の問題を抱えています。自然との調和を大切にしながら、地域活性化を目指したい。こうした思いから、針畑に魅せられて移住してきた若者たちと古くから暮らす人たち、そして周辺地域の人たちの協力によって、二〇〇二（平成十四）年十月にNPO法人「朽木針畑山人協会」が誕生しました。現在、約八〇名の会員が、大自然の中でユニークな活動を展開しています。

これまでに古道の整備や荒廃田の復元、ブナ林がはぐくんだ湧き水「清水」を使っての豆腐づくりやそば打ちなども行いました。また、京都ユースホステル協会との共催で「樵教室」を開いたり、地元の高齢者を訪ねて木の作り方を教えてもらったりしました。針畑で活躍する森林インストラクターや地元住民を迎えて、針畑の歴史文化や自然環境についてのシンポジウムも開催しました。地域社会と二人三脚で活性化に取り組むこうした姿勢は注目を集め、全国から励ましの手紙や、活動に参加したいというメールがたくさん届けられているよつです。

## 山帰来が 朽木村の環境活動の象徴に

朽木村では、針畑山人協会の活動を積極的にサポートしていくために、二〇〇二（平成十四）年四月、針畑郷山村都市交流館「山帰来（さんきらい）」を針畑





針畑郷山村都市交流館「山帰来」とその内観

の地に建設しました。山帰来という名前には、「人々が帰ってくる場所となつてほしい」という願いが込められています。建材はすべて朽木産のスギやヒノキ。梁の部分は、周辺地域のマツを使用しています。

また、最近流行のツー・バイ・フォーではなく、木造家屋の伝統的構法である軸組構法にこだわりました。木の美しさを引き立てるのは、日本建築にほかならないと考えたからです。「山帰来」

を訪ねていただくと、どこか懐かしい木の温もりを感じて、心がほっとするでしょう。まさに朽木村の森林文化を集積した施設ではないかと思えます。

「山帰来」を建設するにあたって、朽木村の環境姿勢を県内外にアピールする施設にしたいと考えました。ちょうど、建設予定地は東西に山が開けた風通し・日当たりの良い場所だったので、風力発電と太陽光発電を採用することにしました。現在、風力発電を三基、太陽光発電については八十八ワットのパネルを五枚設置。施設内で使用する照明やコンセント類の約千ワット分の電力をまかなっています。

平日はあまり電力を消費しないので、余った電力はバッテリーに蓄電しておいて、日曜や祝日など人が集まる時に使うようにしています。もちろん、晴れた日や風の強い日はかりではありません。でも、大自然と向かい合い、そのリズムに合わせて私たちが暮らしていく……。



「山帰来」の風力発電施設  
(右写真は発電量掲示板)

都会生活では味わえない、ゆったりとしたスローライフを満喫するのいいものです。

「山帰来」の取り組みを皆さんに知ってもらうため、施設の入り口付近に現在の発電量を表示する掲示板を用意しています。強風が吹くのを待ちわびる人がいたり、発電量が増減するのを見て一喜一憂する人がいたり、来場者の反応はさまざまですが、こうしたことが少しでも環境問題を考えるきっかけになればと思いますね。

## 環境時代を担う 新しい木質燃料に期待

現在、「山帰来」の運営は、朽木針畑山人協会に委託しています。地域活性化活動の拠点として環境シンポジウムや展示会、会議などを開催しているほか、特産品の栃や木工品、地元で収穫された野菜の販売、また京都大学の芦生演習林がすぐ近くにあることからその休憩所とし

て、観光客や登山者の人々に親しまれるようになってきました。

今後の私たちの取り組みですが、まず、里山での営みをキーワードにしています。薪を利用したり、炭にするといった昔の営みを振り返ることによって、二酸化炭素の排出を抑えたいと思います。木質バイオマスなどの勉強も針畑山人協会とともに進めていきたいです。

二つ目は、朽木産の地域材のPRです。山村では木材価格の低迷が問題になっていますが、市場となる都会ではシックハウス症候群など住宅環境が問題になっています。こうした両方の問題を解決すべく、「安全な木材」の販路を開拓して、需要の拡大を目指していきたいと思っています。

今、里山の美しい自然、景観を次代に伝えていこうという取り組みが全国的に行われています。私たちも朽木村の豊かな森林、清らかな針畑川のせせらぎ、そして澄んだ空気を守っていくために、これからも身近な環境活動に取り組んでいきたいと思っています。